



大戸小だより

URL:<http://oto-e.saitama-city.ed.jp/>



開校148年 学校教育目標 ○かしこく ○やさしく ○たくましく

令和2年6月30日
学校だより7月号
さいたま市立大戸小学校
☎831-3796
明治6年開校

大戸小学校とヒマラヤ杉

校長 長島 クミ子

6月15日から通常登校が始まり、半月がたちました。毎日、みなさんの元気な姿を見ることができて、とてもうれしく思います。学校の新しい生活様式もできるようになり、お友だちとの距離をとったり、こまめにせっけんで手洗いをしたりしている様子が見られるようになりました。これからも3密を避け、手洗い・うがいをこまめに行い、予防をしていきましょう。



さて、今回は大戸小学校のシンボルであるヒマラヤ杉のお話です。体育小屋の横に立っている大きな木を知っていますか。それが大戸小のヒマラヤ杉です。13年ほど前（みなさんが生まれる前）は、体育小屋をはさんで、2本の大きな木が立っていました。1968年ごろの大戸小学校の写真をみると当時はこの2本の間に正門があり、そこを歩いて登校していました（左図）。さらに昔を調べてみると大戸小学校は、大日堂・稲荷神社に最初の学校がありました。その後、二度栗山と国道17号の間に新しい分校を作り移動しました。そして、現在の場所に新しい校舎を作り移動する時に、子どもたちがリヤカーを使って分校からヒマラヤ杉を運んできました（右図）。今年、開校148年ですから、長い間、大戸小学校の子どもたちを見守ってくれた木ということになります。



与野第三国民学校になったのは昭和19年（1944年）、この年からの卒業生は令和元年度までで9928名、大戸小学校の前身の中里学校ができたのが明治6年（1873年）ですから、当時からの卒業生の人数は記録に残っていませんが、多くの子どもたちがヒマラヤ杉に見守られながら生活をしてきたことになります。たくさん子どもたちが元気に運動したり、勉強したり、遊んでいたり、木陰で休んでいたりする様子を見守ってくれたのですね。

この大戸小学校のヒマラヤ杉ですが、1本は平成20年に寿命がきて、惜しまれながらお別れをすることになりました。記念に幹の年輪とスマイルルームの前にあるベンチに変身し、平成23年度には「すぎっぴー」（ヒマラヤ杉の妖精）としてみなさんの前に誕生しました。平成の時代が終わり令和となり、明治・大正・昭和・平成・令和と148年間見守ってくれたもう1本のヒマラヤ杉もとうとう寿命を迎えることとなりました。これまで見守ってくれたことに心から感謝し、私たちはこれからも元気に楽しく生活することをヒマラヤ杉に約束しましょう。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、お別れの会をみんなで開くことはできませんが、一人ひとり心の中でお別れをください。ヒマラヤ杉にはみなさんの心の声が届き、「ありがとう、みんな元気でね。」とこたえてくれています。

地域の皆様、保護者の皆さま、いつも大戸小学校へのご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。お陰様で、6月の学校生活も無事に終えることができました。

さて、上記に掲載しました通り、残念ながら7月にヒマラヤ杉を伐採することとなりましたので、お知らせいたします。どのように変身するかは検討中ですが、幹の年輪は記念に残す予定です。ご理解の程よろしく願いいたします。

＝6月、7月はいじめ撲滅強化月間です。＝

通常であれば、アジサイの花がきれいに咲く6月がいじめ撲滅強化月間ですが、今年は7月まで延長して取り組みます。現在、各クラスでいじめ撲滅のためのスローガンを考え、いじめ撲滅の木に一人ひとりの思いを書いて教室に掲示しています。「いじめは絶対にしてはいけません。」相手のことを考え、思いやりのあるやさしい大戸小学校をみんなでつくっていきましょう。